



# 学会ニュース

---

NO. 3

# 小佐野先生へのインタビュー

---

この度、本学の教育、研究に多大な貢献をされ、ご尽力くださいました甲南大学経済学部経済学科の小佐野広教授が、2026年3月31日をもってご退職されます。

今回、ご退職にあたり、小佐野広教授へインタビューさせていただきました。



# インタビュー

---

## Q1.先生の専門分野・研究テーマを教えてください。

A1. 理論の分野では、情報の経済学を研究しています。経済主体が持っている情報の分布が経済にどのような影響をもたらすのかを研究する分野です。  
応用分野では、コーポレートファイナンスやコーポレートガバナンスを研究しています。

## Q2.大学教員になったきっかけを教えてください。

A2.もともと法学に関心がありましたが、高校3年生のころ、第1次オイルショックで石油の価格が4倍にまで上がったことを見て、経済問題に大きな関心をもつようになりました。

# インタビュー

---

## Q3.教員生活の中で苦労したことはありましたか。

A3.苦労したことは特にはありませんが、難しいことを教える際、学生が理解しやすいように教えることは特に尽力しました。高学年の数式がいっぱい入った授業などです。

## Q4.教員生活の中で、一番印象に残っていることは何ですか。

A4.教員生活では学生へ経済学を教えるだけでなく、研究もしています。

自分が大学院生のころは研究で学術雑誌に載ることができませんでしたが、教員になってから初めて自分の研究が掲載されたときは、とても嬉しかったです。ひとつめの大学に勤めていたころでした。

# インタビュー

---

Q5.教員として働くうえで、一番大切にしていたことは何ですか。

A5.学生を差別しないということを念頭に置いていました。

また、学生を激励するときも優しい言葉をかけるようにしていました。

Q6.大学教員になってよかったことは何ですか。

A6.会社員や公務員と比べて休みを長くとりやすかったと思います。自由な時間に旅行へ行ったり、読書や趣味に打ち込んだりすることもできました。

# インタビュー

---

## Q7.退職された後、してみたいことはありますか。

A7.他大学の経営学部に勤めるので完全に退職するわけではなく、しばらくは今と同じように研究などを続けます。

完全に退職する数年後に何をしようかと考えているところです。

## Q8.大学生の間に学んでいて役に立つことは何ですか。

A8. これからの人たちは、自分で自分の生活を守ることが重要になってくると思っています。そのために資産運用などを学ぶのも良いのではないのでしょうか。

また、会社に就職しても経済がどの方向に進むかを考えられる力が必要です。

そのために経済学の基礎が役立つと思います。

# インタビュー

---

Q9.学生へメッセージをお願いします。

A9.企業や役所などに勤めると働きながら、休日にスキルを磨いていくため、自由な時間が取りにくくなります。

今ある自由な時間に本当に好きなことをしてほしいです。

# 編集後記

---

小佐野先生、この度はお忙しい中退職インタビューにご協力いただき、誠にありがとうございました。インタビューの中でもお話しされていましたが、先生のどの学生に対しても優しい言葉をかけてくださる姿が印象に残っています。

改めまして、長年にわたり甲南大学経済学部にご尽力くださり、誠にありがとうございました。今後の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

学会ニュースを最後までお読みいただき、ありがとうございました。

編集担当：香取